

私立学校特別研修会 外国語（英語）教育改革特別部会 〔東日本エリア（東京 I）〕 実施報告

主催 一般財団法人私学研修福祉会
協力 一般財団法人日本私学教育研究所 / 後援 日本私立中学高等学校連合会

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成 26 年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象としているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていたことから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成 27 年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に埒外に置かれた感は否めません。

ついでには、私立学校においても、外国語(英語)教員の外国語(英語)力・指導力強化を図るためには、教員が 21 世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、当研究所では、平成 27 年度より専門家の指導による特別研修「外国語(英語)教育改革特別部会」を実施しており、平成 28 年度も引き続き、専門家の指導に上記の「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップを加えて、研修を実施することとしました。

当部会【東日本エリア（東京）】では、初日は、英語によるコミュニケーション能力及び表現能力の養成を英語教育の柱とし、キャリアプラン実現に必要な英語力習得を目標としている大妻中野中学校・高等学校を会場に、授業視察、同校での語学教育の実践発表、同校の語学教員との質疑応答・意見交換会を行います。翌日はリファレンス西新宿大京ビル貸会議室において、根岸雅史先生による講演、私学の新しい英語教育の中核を担うべく文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」に参加した私学教員を指導員に迎え、中央研修で最も関心を持ち、有益と感じた内容について、ワークショップを通して学びます。また、参加者の交流を深めてネットワークづくりを進める情報交換会等、多彩なプログラムを行った。

- ◆ 会 期 ◆ 平成 28 年 6 月 17 日（金）～ 18 日（土）
- ◆ 会 場 ◆ 大妻中野中学校・高等学校（17日）中野区上高田 2-3-7
リファレンス西新宿大京ビル貸会議室（18日）新宿区西新宿 7-21-3 西新宿大京ビル 2F

◆ 参加者 ◆ 32 名

◆ プログラム ◆

- ① 研究授業 大妻中野中学校・高等学校（授業参観等）
- ② 実践発表 テーマ 「大妻中野の英語教育・Express Yourself on Cross Curriculum in English」
発表者 大妻中野中学校・高等学校 片岡 孝治 教諭、Craig Nixon 教諭、Willie Vickers 教諭

③ 質疑応答・意見交換 意見・情報交換を通して課題を探求します。

④ 講演 演 題 「大学入試改革と英語教育の行方」
講 師 根岸 雅史 東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授

⑤ ワークショップ ※ワークショップ後にグループに分かれて意見交換会を行います。

テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」

(1) Vocabulary / (2) Grammar 1 / (3) Grammar 2

※文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者が担当します。

指 導 小 澤 幹 生 東洋大学附属牛久中学校・高等学校 教諭
岡 本 卓 也 大森学園高等学校 教諭
松 本 浩 欣 相模女子大学中学部・高等部 教諭
伊 藤 佳 貴 大同大学大同高等学校 教諭
中 川 右 也 鈴鹿高等学校 教諭
東 山 泰 浩 京都外大西高等学校 教諭

◆ 日程概要 ◆

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	30			10 15	45 0		0	30 45	0
6月17日(金) 大妻中野 中学高等学校				受付	開 会 式	研究授業		実践 発表	質疑応答 意見交換会
6月18日(土) リファレンス西新宿 大京ビル		講演	ワークショップ	昼食		ワークショップ	意見交換会	閉 会 式	

◆ 学校紹介 ◆

大妻中野中学校・高等学校〔理事長 花村邦昭／校長 宮澤雅子〕

1941年文園高等女学校として創立。1971年に大妻女子大学の附属高等学校となる。1995年から中学を併設し、中高一貫教育校となる。2003年より海外帰国生中学入試をスタートさせ、帰国生教育に積極的に取り組んでいる。現在は中高合わせて、約150名の海外帰国生が在籍。この帰国生教育の成果を生かし、2016年よりグローバルリーダーズコースを設置。英語教育の新しい取り組みを始めるとともに、このコースは第2外国語としてフランス語を必修としている。2013年の完全新校舎完成に合わせ、全教室に電子黒板を設置、2016年からは、生徒が一人一台タブレットを持つての学習など、ICT積極活用にも取り組んでいる。建学の精神である「学芸を修めて人類のために Arts for Mankind」をグローバル社会でリーダーとして活躍できる女性の育成として捉えなおし、2015年度より文科省SGHアソシエイト校として、さまざまな新しい取り組みを進めている。特にグローバル課題の探究と言語コミュニケーション能力の開発の有期的な結合をめざし、外国語（英語、フランス語）の取り組みについて、さまざまな新しい方法を模索している。

◆ 講師プロフィール ◆

根 岸 雅 史

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。専門は英語教育学・言語テスト論。これまでにGTEC for STUDENTSやケンブリッジ英検などさまざまなテスト開発に関わる。近年はCEFRや学習者言語の分析にも研究領域を広げている。文部科学省の「外国語能力の向上に関する検討会」委員、「外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議」委員、「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する作業部会」委員。学習指導要領実施状況調査および様々な英語力調査に長年関わる。主な著書に、中学校英語検定教科書『NEW CROWN ENGLISH SERIES』（三省堂）、『コミュニケーション・テストへの挑戦』（三省堂）、『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る』（共著）（大修館書店）。『CEFR-Jガイドブック』（分担執筆）（大修館書店）

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

根 岸 雅 史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院	教授
宮 澤 雅 子	大妻中野中学校・高等学校	校長
片 岡 孝 治	大妻中野中学校・高等学校	教諭
Craig Nixon	大妻中野中学校・高等学校	教諭
Willie Vickers	大妻中野中学校・高等学校	教諭
小 澤 幹 生	東洋大学附属牛久中学校・高等学校	教諭
松 本 浩 欣	相模女子大学中学部・高等部	教諭
岡 本 卓 也	大 森 学 園 高 等 学 校	教諭
伊 藤 佳 貴	大 同 大 学 大 同 高 等 学 校	教諭
中 川 右 也	鈴 鹿 高 等 学 校	教諭
東 山 泰 浩	京 都 外 大 西 高 等 学 校	教諭
吉 田 晋	富 士 見 丘 中 学 高 等 学 校	理事長・校長

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平 方 邦 行	工学院大学附属中学高等学校	校長
浜 野 能 男	普連土学園中学高等学校	校長
松 本 浩 欣	相模女子大学中学部・高等部	教諭
水 澤 孝 順	大妻中野中学校・高等学校	主幹
川 本 芳 久	一般財団法人日本私学教育研究所	事務局長代行
山 崎 吉 朗	一般財団法人日本私学教育研究所	主任研究員

私立学校特別研修会外国語（英語）教育改革特別部会【東日本エリア（東京1）】 実施内容概要

6月17日（金）～18日（土）に大妻中野中学校・高等学校及びリファレンス西新宿大京ビル貸会議室を会場に開催。参加者は32名であった。初日は大妻中野中学校・高等学校において研究授業視察、同校の教員による実践発表と質疑応答が行われた。2日目はリファレンス西新宿大京ビル貸会議室で根岸雅史・東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授による講演と平成27年度文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップを行った。アンケートでは、視察校がICT機器（タブレット端末）を効果的に用いている事が参加者の刺激になったこと共に、多くの学校がICT機器の導入に対して感心があることが分かった。

開会式



山崎吉朗・研究所主任研究員より挨拶では、私学が現在の英語教育改革の流れに立ち遅れているため、2012年に英語教育についての研修会を始めたとして特別研修会を開始に至った経緯を述べた。2日目のワークショップについての説明と、本年度の英語教育推進リーダー中央研修についても紹介した。続いて、宮澤雅子・大妻中野中学校・高等学校校長の挨拶は参加者に感謝を述べると共に、これから生きる子どもが世界で生きていくためには英語の能力は欠かせない、英語、思考力を重視している。大妻中野中学校・高等学校の英語教育を見て頂きたいと述べた。

研修授業

7つの授業を見学した。ネイティブ教員によるオールイングリッシュの授業やフランスの語の授業など幅広い内容を見学できた。特に参加者の注目を集めたのは、Skypeを用いて海外の学校と1対1でコミュニケーションを取る授業であった。また、多くの授業でICT機器が用いられていたこと、プレゼンテーションやリサーチの授業が多かったこと、生徒もオールイングリッシュで行う授業など、視察校で実践されている内容が参加者にとって大いに参考になった。



実践発表

実践発表は3名の先生から行われた、最初に片岡孝治・視察校教諭による学校概要説明、Craig Nixon・同校教諭からグローバルリーダーコース及び授業について、Willie Vickers・同校教諭からクリティカルシンキングとクリティカルライティングの授業方法についての説明があった。



- ・ICT環境については、タブレットの導入は4月からで、高1から中1までの4つの学年。全ての教室に電子黒板がある。研究授業で視察したオンライン英会話も4月から週に1回、20分、年間15週。これも高1から中1までの4学年で行っている。
- ・グローバルコースはホームルームも英語で行い、ネイティブと日本人の二人担任制をとっていることなどが説明された。
- ・同コースの英語教育については、帰国生の中でも英語の力にばらつきがあることを前提として、英語の能力を伸ばすにはボキャブラリーが大切である。ライティングは簡単な課題であるエッセイと困難な課題であるパラグラフライティングを行っている。リーディングについては、生徒が何を読んでいるのかを理解させ、お互いに自由な質問で問題を出させるなどの取り組みを行ったり、文章の要約を行ったりしている。文法については週2回日本人教師が行っている。

・クリティカルシンキングへ至るためのクリティカルライティングの具体的な事例授業方法についての説明があった。

質疑応答

視察校・教諭との質疑応答が行われた。ICT環境・機器の設備等や研究授業等について多くの質問が出され、充実した質疑応答となった。参加されたいずれの学校もICTの導入に対して高い関心があることが見て取れた。

講演

根岸雅史・東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授による大学入試改革・英語教育改革についての講演を行った。英語教育改革・入試改革の現状と英語教育改革が何故必要であるのかが明解に理解できる講演であった。参加者からも現状・問題が良く理解できたという感想が寄せられた。



個別大学入試の時代、1979年からの共通一次試験を経て1990年に始まり26年間続いたセンター試験が変わる時期に来ている。日本の大学入試制度の特徴は「大学『入学』試験であり高校『修了』試験ではない」「センター試験と個別入試という2つの入試」があり、一人の受験生が複数の入試を受験し、試験も多様化している。またセンター試験は50万人が受験するなど、受験生も大量である。その結果、多様な入試問題によって媒介者の解釈も多様化し、合格ラインを引かないといけなため1点刻みの入試が続いていることが問題点として指摘された。

学校英語教育に対する不満は受験英語と実践英語の乖離していることにある。つまり、「受験英語」の指導には感謝、しかし、「実用英語」の指導には不満をもっているという構造である。これを受けて、「英語教育」に対し次々と改革を行った。しかし、改革のインパクトは一部の先生のみで、全体には波及しなかった。

現在の英語教育を語るキーワードは「英語で言語活動中心」「4技能・多面的に指導・技能」「多面的評価」「Can-Doリストによる学習到達目標」である。しかし、これらは「訳読、言語活動は飛ばす」「リーディング、文法は文法問題集、単語は単語帳」「スピーキングテスト不在」「大学入試結果による数値目標設定」の実体とは相違している。

入試は、和訳と英訳、リーディング、文法問題、語彙、スピーキングは不在。これが、キーワードで見た実体につながっている。現在は、受験英語から実用英語に切り替えていく形になっていることを、受験英語＝実用英語という単独の形にしようとしている。4技能を総合的に評価する入試の必要性は学習指導要領との整合性をとることでもある。大学入試が変われば、授業がかわるかという問題がある。授業を変えるためには、研修が必要である。研修によって先生の持つ「受験英語」に対する信念を変え、「受験勉強」の習慣や学習モラルが学習指導要領の主旨をはねつけている現状を変えて行くことが大切であると結んだ。

ワークショップ

平成27年度文部科学省推進事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の先生方の指導によるワークショップが行われた。今回の内容は「Vocabulary」「Grammar 1」「Grammar 2」の内容で行われた。ペアワークやグループワークなど、生徒の立場になって受ける模擬授業と、模擬授業の検討を通して英語での英語の授業について参加者が学んだ。授業に取り入れられるヒントを得られた等の意見が寄せられた。

ワークショップ後の意見交換会では、英語教育推進リーダー中央研修についての説明や質疑応答が行われた。ワークショップの内容について、「普段の学校ではどのくらいワークショップの内容を取り入れているか」「英語での授業をおこなったことによって生徒に何か変化はあったか」などの質問が寄せられた。



閉会式



山崎吉朗・当研究所主任研究員が以下のような総括を行った。

- ・ AIの研究を行い東ロボ君の開発を行っている荒井紀子氏によると、日本語の問題文を読めない中学生・高校生がいる。答えが書いてあるような日本語を見て、下の選択肢を選べという問題が解けない生徒が少なからずいる。英語以前に日本語力がついていないといけない。

- ・ 溝上慎一氏によるとアクティブ・ラーニングが走りすぎている、講義プラスアクティブ・ラーニングでアクティブ・ラーニング方授業をしようとしているが、アクティブ・ラーニングだけでは授業にはならない。話し合いのようなどころだけでは、力がかからない。きちっとした基礎がなければ何も出来ないと述べていた。

- ・ 言語には向き不向きがある。英語だけで選択肢がなくてチャンスをつぶしているのは残念。日本がガラパゴス化しないようにしたいと考えている。挑戦できる生徒を育てて欲しいと思う。

◆都道府県別参加申込者数

No	都道府県名	参加申込数	No	都道府県名	参加申込数	No	都道府県名	参加申込数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	2	34	広島	0
3	岩手	0	19	山梨	1	35	山口	0
4	宮城	2	20	長野	1	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	1	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	1	23	愛知	1	39	高知	1
8	新潟	0	24	三重	0	40	福岡	1
9	茨城	1	25	滋賀	0	41	佐賀	0
10	栃木	0	26	京都	0	42	長崎	0
11	群馬	1	27	大阪	1	43	熊本	0
12	埼玉	0	28	兵庫	1	44	大分	0
13	千葉	0	29	奈良	0	45	宮崎	0
14	神奈川	4	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東京	11	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	2	32	島根	0	計		32

◆アンケート結果

回収率 27名/32名(84.3%)

問1 当研修会への参加目的をお知らせ下さい

- ・ICT活用の授業を見学し、メリット・デメリットを含め、自校での将来的な導入を検討する
- ・私立中高一貫の学校において、英語の先進の授業の工夫・様子を知らたかった
- ・大学入試改革の状況・今後の英語教育について最先端の情報を知らたかった
- ・「英語教育推進リーダー中央研修」受講者とのワークショップを通して、自己研鑽とするため

問2 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい

○研究授業

- ・タブレットを使いながら学習を進めることで、「調べたい時にいつでも調べられ」ということもあり、グループ内での話し合い・討論も積極的だったように感じた
- ・タブレットを効果的に使用しており、生徒が受け身の授業にならず、常に主体的に考えながら取り組んでいる姿にとっても感心した
- ・どの授業もプレゼンの準備をしていて、発表させることの重要性を再認識した
- ・生徒達がAll Englishで話合っているのが、とても良かった(リサーチも英語のサイトを使用)

○実践発表

- ・スピーチや論を展開する上で、専門知識の必要性を感じ、高校教育での教育方法の変化していく姿を実感した
- ・表面的な会話ではなく、critical thinkingへと生徒を導く先生方の緻密な計画に驚いた
- ・経験のみならず、体系立てて理論に基づいた実践をされていることが分かり、とても参考になった
- ・自分で考えてそれを英語でoutputすることの重要性を改めて学べた

○質疑応答

- ・ネット環境整備など、現実化していくべき今の流れを実感できた
- ・タブレット導入の経緯や保護者などどのような話し合いがもたれたのか具体的に知ることができてよかった
- ・ICTの活用法や導入について詳しく知ることができ、大変参考になった
- ・やはり他校もタブレットや電子黒板、Wi-Fiの導入について感心があったようで、具体的なことが聞けて良かった

○根岸雅史先生講演

- ・入試の今後の方向性ととも、教員としての心構えが把握でき有意義であった
- ・大学入試の現状がよく理解できた
- ・様々な話が聞けましたが4技能テストから想定されるインパクトが印象的でした

- ・大学入試の変化、それに伴い、現場の教員がどの様に授業を変えていくべきなのかがわかった

○ワークショップ

- ・新しいアイデアを得ることができて、また生徒の立場になってワークショップを受けられたのがよかった
- ・ちょっとした工夫で授業がアクティブになることが分かり、是非使わせてもらおうと思った
- ・activityを通して、生徒がいま学んでいる英語が自己表現や他者理解にどう必要なのかを感じさせるプロセスが重要だと感じた
- ・普段教えている文法を型だけでなく本質に迫った指導を見せていただいたと感じた

○意見交換会

- ・今後の方針や普段の授業の工夫が伺え良かった
- ・各校の先生方のモチベーションが高く、このやる気を自分の学校へ波及させたい
- ・どのように教員間で情報・意見交換するかということなどを学んだ
- ・講師の先生方の職場でのご苦労を知り、とても親近感が湧いた

問3 今後の本研修会への要望等をお書き下さい

- ・授業で取り入れてみたいと思えることを学べて良かった、今後の指導に十分に活かしたい
- ・今回のような実践的な取り組みを学ぶ機会をぜひとも継続・発展させていただけるよう強く望む